

レファレンスコーナー -- アジアの高齢者 (ブックシェルフ)

著者	佐々木 茂子
権利	Copyrights 日本貿易振興機構 (ジェトロ) アジア経済研究所 / Institute of Developing Economies, Japan External Trade Organization (IDE-JETRO) http://www.ide.go.jp
雑誌名	アジ研ワールド・トレンド
巻	169
発行年	2009-10
出版者	日本貿易振興機構アジア経済研究所
URL	http://hdl.handle.net/2344/00004673

レファレンス コーナー アジアの高齢者

佐々木茂子

日本は、世界が嘗て経験したことのない速さで高齢化が進展し、内閣府発表の平成二十二年版高齢社会白書によれば、二〇〇八年一月一日現在の高齢化率（六五歳以上の高齢者人口が総人口に占める割合）は、二二・一％である。しかし、現在アジア地域には、日本と同等かそれ以上の速さで高齢化が進展している国々がある。先進諸国と異なり、社会保障制度が不十分のまま高齢化に直面することになる。各国政府は、その対応を迫られている。従来、アジア地域では、家族が高齢者支援の核であったが、産業化に伴う人口および社会変動により、その伝統的な家族機能は失われつつある。

本稿では、アジア地域の高齢化の現状と、高齢者福祉に関する最近の資料を紹介する。

まず、各国の現状を概観するものとして、片多順編著『高齢者福祉の比較文化 マレーシア・中国・オーストラリア・日本』（九州大学出版会 二〇〇〇年）は、政治・経済・社会体制、民族、宗教、文化のあらゆる面で異なる国々が、高齢化という共通問題にどのように対応するかを比較する。他方、沈潔編著『中華圏の高齢者福祉と介護 中国・香港・

台湾』（ミネルヴァ書房 二〇〇七年）は、儒教文化を共有しながら、政治・経済・社会体制の異なる中華圏が、老親扶養の家族文化と相互扶助の地域文化をどのように受け止め、高齢者福祉に反映させてきたのか解明を試みる。同じく儒教文化圏の韓国では、一九九八年の経済危機と政権交代以降、社会福祉制度が大きく変化した。韓国社会科学研究所社会福祉研究室『韓国の社会福祉』（新幹社 二〇〇二年）はその変化と新たな問題点、未来への課題を整理する。

木原隆司著『高齢化する東アジアの金融市場育成と社会保障整備 知的支援の可能性』（国際協力機構国際協力総合研修所 二〇〇八年）は、高齢化が金融市場に及ぼす影響を分析し、各国の公的年金制度とそれを支える金融市場の現状を報告する。

高齢者をとりまく生活条件のうち、居住形態に着目する嵯峨座晴夫『ほか』著『アジアにおける世代間の居住形態と高齢者 台湾・韓国・日本・シンガポール・マレーシアの比較研究』（早稲田大学人間総合研究センター 二〇〇三年）は、各国別の文献目録と課題が豊富で参考になる。

保健・医療の分野では、アジア人口・開発協会が『アジア諸国の高齢化と保健の実態調査報告書』として、二〇〇〇年に上海市、二〇〇一年にはタイの事例をまとめている。都市部から高齢化が進んでいるのが中国の特徴であるが、上海市は、人口抑制と経済成長を両立させ、中国で最も高齢化が進んだ都市である。一方

タイはASEAN諸国の中でも、出生力の低下速度が激しい国である。さらに、井伊雅子編『アジアの医療保障制度』（東京大学出版会 二〇〇九年）では経済学者や臨床医がオーストラリア、シンガポール、香港、中国、インド、韓国、台湾、日本の医療保障制度を比較・分析する。

つぎに前例のない規模と速度で高齢化が進む中国についてまとめて紹介する。王文亮著『中国の高齢者社会保障 制度と文化の行方』（白帝社 二〇〇一年）、中国研究所編『中国は大丈夫か？ 社会保障制度のゆくえ』（創土社 二〇〇一年）、沈奇志著『改革開放中国の光と「陰」積み残された福祉』（文眞堂 二〇〇三年）、広井良典、沈潔編著『中国の社会保障改革と日本』（ミネルヴァ書房 二〇〇七年）は、それぞれ高齢者福祉を含む社会保障の変遷と、その歴史的背景について詳しい。また、宇佐良新一編『新興工業国の社会福祉 最低生活保障と家族福祉』（アジア経済研究所 二〇〇五年）には、李連化著『中国都市部の高齢者福祉 高齢化、市場化とウェルフェア・ミックス』を収める。

中国においても、女性が介護の担い手となる場合が多いが、ジェンダーの視点から高齢者問題を捉えた資料として、李秀英著『上海市女性高齢者生活状況に関する訪問調査（アジア女性交流・研究フォーラム 二〇〇一年）』は、上海市に居住する高齢女性に行った聞き取り調査の報告である。荒井良雄『ほか』著『中国都市の生活

空間 社会構造ジェンダー：高齢者』（ナカニシヤ出版 二〇〇八年）も上海市住民を対象として、生活空間の特質、ジェンダー構造、高齢化等の問題を論じている。富田武・李静和編『家族の変容とジェンダー 少子高齢化とグローバル化のなかで』（日本評論社 二〇〇六年）には、湯山トミ子による、中国における高齢者扶養システムの法制化について、親子観・扶養観の視点からその特質と今後の課題についての分析を収める。

最後に、高齢者問題に対処するためには、年金や医療、介護などの物的な保障だけでなく、精神的な保障としての「生き甲斐」が不可欠である。謝保群著『中日両国における高齢者生涯学習支援体制の現状と課題』（風間書房 二〇〇七年）は、その有効な施策のひとつとして高齢者の生き甲斐を創出する生涯学習支援体制のあり方について提言する。

世界が初めて経験する人口高齢化では、高齢者自身もバイオニアとしての役割を担うことになるだろう。

（やさき しげこ）アジア経済研究所図書館

【参考サイト】

- ①内閣府ホームページ
<http://www.cao.go.jp>
- ② HelpAge International
<http://www.helpage.org/>
- ③ 高齢者虐待防止国際ネットワーク
(INPEA) <http://inpea.net/>